

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 目的（文部科学省のねらい）

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ ア、イの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

教科に関する調査（筆記） 令和7年4月17日（木）

（小学校：国語・算数・理科）（中学校：国語・数学）

教科に関する調査（CBT¹）（中学校：理科） 令和7年4月14日（月）

質問紙調査（小学校、中学校） 令和7年4月18日（金）

(3) 吉田町の実施学校数及び実施児童生徒数

ア 小学校

3校（住吉小学校・中央小学校・自彌小学校） 児童数212人（第6学年）

イ 中学校

1校（吉田中学校） 生徒数242人（第3学年）

(4) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

イ 質問紙調査

② 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

① 学校に対する調査（指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等）

2 調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の正答率は、中学国語「書くこと」においては国を上回ったが、各教科いずれも県や国よりも低く、上位層が少なく下位層が多い傾向にあった。
- (2) 質問紙調査の回答において、ICTを活用した学習状況、主体的・対話的で深い学びに関する実践力や意識が高いが、教科が好き、役に立つ等という意識は低かった。

3 これから身に付けていきたい力

(1) 課題を見いだし、情報を活用して考える力

教科の学習の中で感じた疑問や課題を出発点に、必要な情報を収集・選択・整理・分析し、教科の見方や考え方を働かせながら、これまで学んだことや日常生活と結び付けて根拠をもって考える力

(2) 他者と情報を共有し、考えを深める力

調べた情報や自分の考えをICTなどを活用して表現・共有し、他者の意見やデータと比較・検討・再構成しながら、よりよい考えをつくり出す力

(3) 自分の学びを見取り、改善していく力

学習内容に対する興味・関心や考え方の変化に気付き、自分の理解の進み具合を振り返り、自己の課題を解決していく力

¹ CBT（Computer Based Testing）とは、コンピューター上での試験方式のこと。

4 吉田町の学力に対する調査結果

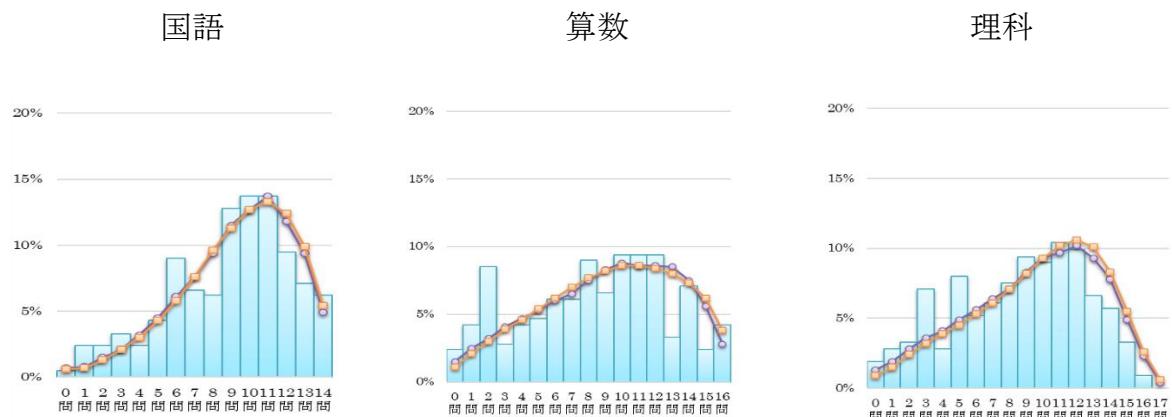
(1) 平均正答率の静岡県・全国との比較

学年	教科	吉田町	静岡県	差	全国	差
小6	国語	63.9	66.0	-2.1	66.8	-2.9
	算数	52.4	57.1	-4.7	58.0	-5.6
	理科	50.2	55.3	-5.1	57.1	-6.9
中3	国語	53.2	56.3	-3.1	54.3	-1.1
	数学	45.0	51.0	-6.0	48.3	-3.3
	理科 (IRT ²)	497	527	-30	503	-6

(2) 正答数に対する児童生徒の割合

■ 吉田町教育委員会 ■ 静岡県（公立） ■ 全国（公立）

【小学校】



【中学校】



² IRT とは、正解・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論で、IRT スコアは、項目反応理論に基づいて正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準とした得点で表すものである。

（「令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRT を用いた結果返却について」参照）

³ IRT バンドとは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったもので、3 を基準のバンドとして 5 が最も高いバンドとなる。IRT スコア・IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。（「令和7年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRT を用いた結果返却について」参照）

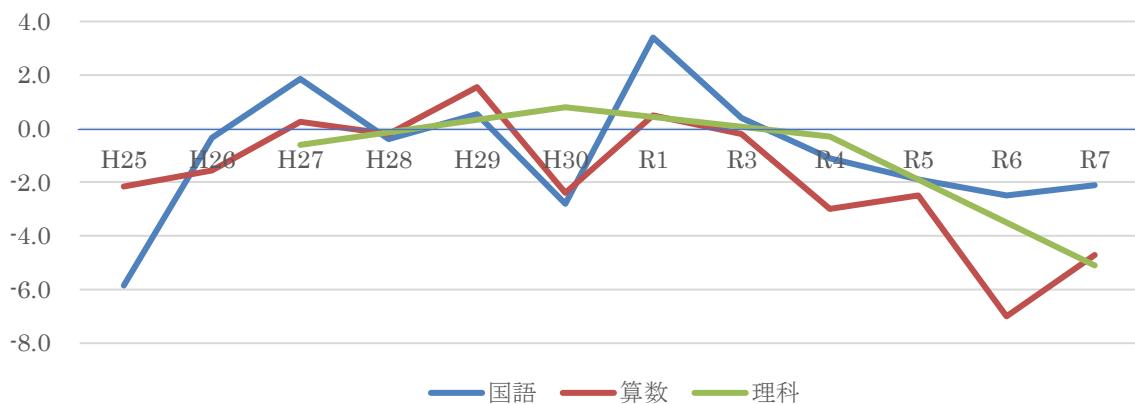
(3) 平均正答率の経年比較：県との差 (%)

ア 小学生

※ 平成30年度までの結果は、国語A・国語B及び算数A・算数Bを足して平均を出し「国語」「算数」の平均正答率を算出

教科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	R5	R6	R7
国語	-5.9	-0.3	1.8	-0.4	0.6	-2.8	3.4	0.4	-1.1	-1.9	-2.5	-2.1
算数	-2.2	-1.6	0.3	-0.2	1.6	-2.4	0.5	-0.2	-3.0	-2.5	-7.0	-4.7
理科			-0.6			0.8			-0.3			-5.1

小学校 静岡県との経年比較



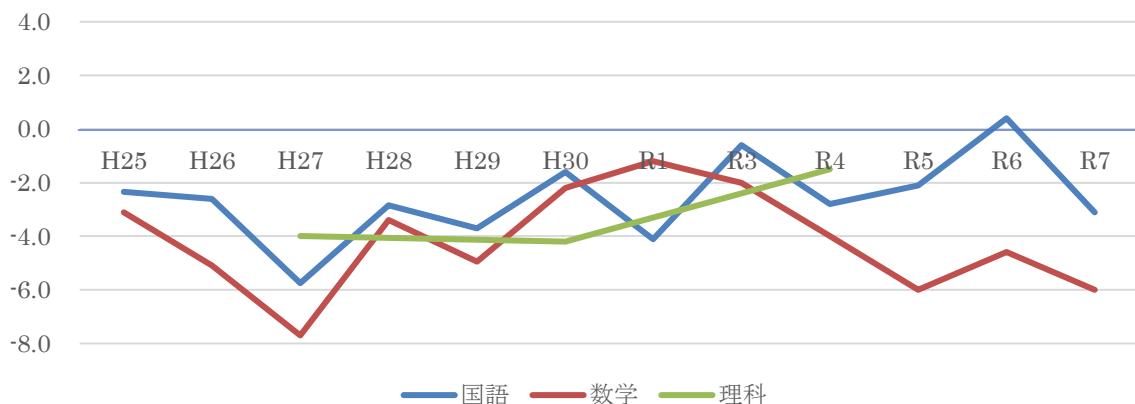
イ 中学校

※ 平成30年度までの結果は、国語A・国語B及び数学A・数学Bを足して平均を出し「国語」「数学」の平均正答率を算出

教科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	R5	R6	R7
国語	-2.4	-2.6	-5.8	-2.9	-3.7	-1.6	-4.1	-0.6	-2.8	-2.1	0.4	-3.1
数学	-3.1	-5.1	-7.7	-3.4	-5.0	-2.2	-1.2	-2.0	-4.0	-6.0	-4.6	-6.0
理科			-4.0			-4.2			-1.5			-30

※令和7年度はIRTスコア

中学校 静岡県との経年比較



(4) 県や国と比較して正答率が高い主な問題

科目	問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
		吉田町	県	全国		
国語 (小)	1 一	56.9	54.1	53.3	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る
国語 (中)	2 二	80.1	80.4	77.9	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る
算数 (小)	2 (2)	52.8	54.4	50.2	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかを見る
数学 (中)	3	62.4	59.3	58.1	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかを見る
理科 (小)	3 (2)	47.6	46.1	45.6	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかを見る
理科 (中)	1 (2)	60.9	51.3	46.2	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかを見る
	1 (6)	84.5	83.6	79.4	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかを見る

目的に応じて相手に分かりやすく伝えたり、課題を設定したりする力が、県や国に比べ定着が見られた。学びの手引き（学習計画）を児童生徒と教師がと共有し、児童生徒自ら学びを大切にした探究的な学びの効果と考えられる。

(5) 課題が見られた問題

【小学校国語】

問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
3二(1)	73.9	80.2	81.6	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかを見る
3二(2)		43.6	51.3	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る
3三(1)		33.2	40.1	【話し合いの様子】の田中さんの発言空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る

問題番号 3二(2)

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る問題

3

【資料1】

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで「資料1」を読みました。そして、「資料1」を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめるようになりました。「資料1」をよく読んでどの問い合わせに答えましょう。

（文化庁国語課「文化庁国語課の発達いしやすい日本語」による）

【資料1】

（文化庁国語課「文化庁国語課の発達いしやすい日本語」による）

木村さんは、「資料1」を読み、次の「木村さんの経験」を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あととの1から4までの順番から一つ選んで、その番号を書きましょう。

※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。

※2 「短絡」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。

※3 「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

1 時代とともに言葉の意味が変わること。

2 時代とともにものの使い方が変わること。

3 世代によつてもの呼び方がちがうこと。

4 世代によつて言葉の使い方は変わらないこと。

木村さん

二 木村さんは、「資料1」を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思いました。そこで、次の「資料2」と「資料3」を読み、分かったことをあとの「木村さんのメモ」に整理しています。これらをよく読んで、あとの(1)と(2)の問い合わせに答えましょう。

【資料2】

(4) 朝治明「日本語をつかまえろ!」によると

【資料3】

(5) 朝治明「日本語をつかまえろ!」による

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

【あたらし】は新しい形

(平安時代) → (今)

あらたし → A → あたらし

時代とともに言葉の形が変わること

【正答】 あたらし

1 時代とともに言葉の意味が変わる。

2 時代とともにもの使い方が変わる。

3 世代によつてものの呼び方がちがう。

4 世代によつて言葉の使い方は変わらない。

正答: 1

問題番号3三(1)

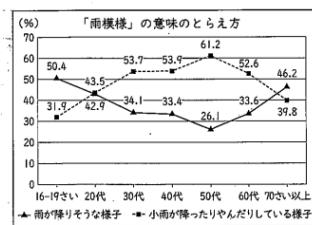
目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る問題

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問い合わせに答えましょう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料(「資料2」、「資料3」)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。「資料1」に「言葉の正誤」を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料4】



【話し合いの様子】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、「資料3」を読み返して、言葉の変化について自分が一番なつとくしたことをまとめよう。

【資料1】のAに当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 「資料1」の A 部①
- 2 「資料1」の A 部②
- 3 「資料1」の A 部③
- 4 「資料1」の A 部④

正答: 3



学習指導要領における内容（抜粋）

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。
- ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
- ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

＜改善に向けて＞

正答率が高い問題と低い問題を比較すると、正答率が高い問題は提示資料が1つ、低い問題は提示資料が4つと資料数に差があり、複数の資料を関連付けて読む力に課題がみられた。目的に応じて文章と図に線を引いたり、表に整理したりするなど資料の関連を可視化しながら考えをつくる力を付ける必要がある。

また、正答率が低い問題の傾向から「C 読むこと」に課題があった。学習指導要領では「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること」「その考えを表現し互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して自分の考えを広げていくこと」をねらいとしており、友達との対話を通して物事を多面的に捉え、読みを深める力を付ける必要がある。

【小学校算数】

問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
3(2)	19.8	20.0	23.0	3／4 + 2／3について、共通する単位分数と、3／4と2／3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる
3(3)	25.5	33.0	35.0	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる
3(4)	73.6	80.4	81.3	1／2 + 1／3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる

問題番号 3(2)

分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

正答例：

3/4 と 2/3 のもとにする数を同じ数にするとき、その数は 1/12 になります。3/4 は 1/12 の 9 個分、2/3 は 1/12 の 8 個分です。

正答の条件：

次の①、②、③の全てを書いている。

- ① 3/4 と 2/3 に共通する単位分数が、1/12 であることを表す数や言葉（分母が 12 の倍数の単位分数を含む）
- ② 3/4 が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉
- ③ 2/3 が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉

学習指導要領における内容（抜粋）

[第5学年] A 数と計算

(5) 分数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算がされること。

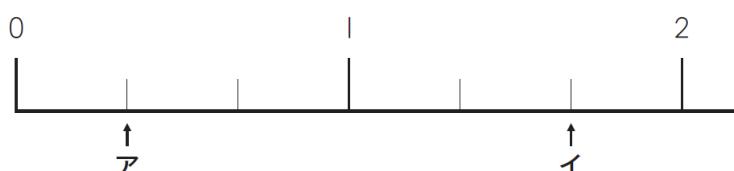
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。

問題番号 3(3)

数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかを見る問題

(3) 次の数直線のア、イの目もりが表す数を分数で書きましょう。



正答：

ア $\frac{1}{3}$

イ $\frac{5}{3}$ 又は $1\frac{2}{3}$

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第3学年〕 A 数と計算

- (6) 分数とその表し方に関する数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知ること。また、分数の表し方について知ること。
- (イ) 分数が単位分数の幾つかで表すことができることを知ること。

＜改善に向けて＞

全体的に正答率が県や全国に比べ低く、学習したことが理解できているか、児童生徒一人一人が学びの状況を確認する必要がある。また、問題を解く技能のみにとどまらず、考え方や誤答の原因について議論するなど、個々の理解の状況に応じた学び方によって定着を図っていくことが大切である。

問題3(2)の分母の異なる分数の計算については、単位分数の意味を理解した上で論理的に説明する力が必要であり、基礎的・基本的な内容の理解とともに、図を用いて分数の意味について考えたり、既習事項を振り返り、共通点や相違点に気付いて統合的に考えたりすることで理解を深める必要がある。

また、各学年のつながりを意識し、見方・考え方を下学年から繰り返し働きかせることが大切である。該当学年の内容のみを学習するのではなく、領域を通して振り返る場を設定することで、概念や性質についての理解を深め、学んだ知識及び技能を問題解決において活用する方法を理解する必要がある。

【小学校理科】

問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
2(1)	6.1	9.4	10.6	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかを見る
2(3)	56.1	76.4	78.0	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る
2(4)	37.7	52.9	55.1	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかを見る

問題番号 2(1)

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題

2

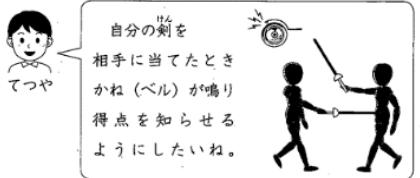
てつやんといおりさんは、フェンシングについて調べています。



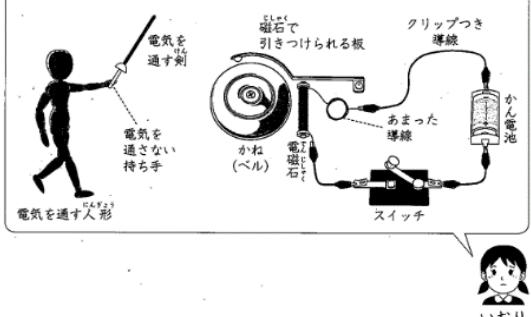
(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までのなかからそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

てつやんといおりさんは、これまでに学習した電気の性質を利用して、フェンシングのおもちゃをつくることができないか、話しています。



これらの物を使ってつくることはできないかな。



正答：
アルミニウム 2
鉄 1
銅 2

学習指導要領における内容（抜粋）

[第3学年] A 物質・エネルギー

- (4) 磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (ア) 磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。また、磁石に近付けると磁石になる物があること。
- (5) 電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (イ) 電気を通す物と通さない物があること。

問題番号 2(3)

電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る問題

いおりさんとてつやさんは、かね（ベル）について話しています。

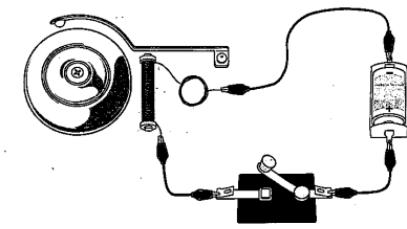
かね（ベル）の鳴る音が小さいので、音を大きくしたいね。^{ひびきを}電磁石の強さを強くして、かねを強くたたけばいいね。



電磁石の強さを強くするには、次のようにするといいね。

・電磁石のコイルの巻き数を変えるとしたら、巻き数を（ア）。

・かん電池を変えるとしたら、かん電池を2個直列つなぎにする。



正答：多くの 又は 増やす

(3) 上のふきだしの（ア）にあてはまることばを書きましょう。

学習指導要領における内容（抜粋）

[第5学年] A 物質・エネルギー

- (3) 電流がつくる磁力について、電流の大きさや向き、コイルの巻数などに着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (イ) 電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わること。

＜改善に向けて＞

知識が身に付いたか問う問題が県や国と比較し低い正答率であった。

より深く理解し活用できるようにするために、観察・実験で得られた結果の共通点や相違点から傾向を見つけ出し、科学的視点を根拠に原理や法則に結び付けて結論を導き出すことで体系的に整理することが大切である。

また、理科においては、紙面上の学びに留まらず操作や実験などの体験を通して発見したり、驚きを味わったりすることで印象深く学ぶことが大切である。

【中学校国語】

問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
2四	23.7	27.9	23.2	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫することができるかどうかをみる
3四	15.4	18.8	17.1	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

問題番号3四

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題

3

次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとどの問い合わせに答えてください。

(島崎藤村「二人の兄弟」による。)

四 [] で開まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のあとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になつていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考え方とその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

正答例：

読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一 檜木の実」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。

正答の条件：

次の条件を満たして解答している。①どのような効果があるかを書いている。②①のように考えた理由を、「の部分のような『あとに続く話』が、『一 檜木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。③②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

＜改善に向けて＞

文章の構成を考えたり、自分の考えを書いたりする力を問う問題の正答率が低かった。この力を付けるためには、文章全体や部分における展開を把握して自分なりの意味付けをして考えることが重要である。

問題3四では、文章を根拠に自分以外の読み手の解釈と比較しながら意見交流して考えを比較し、作品への理解を深める必要がある。

【中学校数学】

問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
1	23.1	34.2	31.8	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかを見る
2	40.9	53.2	51.9	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかを見る
4	25.6	30.9	34.7	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めるができるかどうかを見る
6(2)	20.2	26.7	25.7	3^n と $3^n + 3$ の和を $2(3^n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る
6(3)	36.4	51.1	45.2	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを見る

問題番号 6(2)

式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る問題

- 6 結菜さんと太一さんは、3、6や12、15のような連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるか調べるために、次の計算をしました。

$$\begin{array}{ll} 3, 6 のとき & 3 + 6 = 9 \\ 12, 15 のとき & 12 + 15 = 27 \\ 30, 33 のとき & 30 + 33 = 63 \end{array}$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。
そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) \\ = 3n + 3n + 3 \\ = 6n + 3 \\ = 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n + 1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。
太一さんの式の変形の $2(3n + 1) + 1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、 である」という形で書きなさい。

正答例：

連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。

問題番号 6(3)

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを見る問題

- (3) 結菜さんは、連続する2つの3の倍数を、連続する3つの3の倍数に変えた場合、その和がどんな数になるかを調べました。

$$\begin{array}{ll} 3, 6, 9 のとき & 3 + 6 + 9 = 18 = 9 \times 2 \\ 6, 9, 12 のとき & 6 + 9 + 12 = 27 = 9 \times 3 \\ 9, 12, 15 のとき & 9 + 12 + 15 = 36 = 9 \times 4 \end{array}$$

結菜さんは、これらの結果から次のことを予想しました。

予想

連続する3つの3の倍数の和は、9の倍数になる。

上の予想がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

n を整数とすると、連続する3つの3の倍数は、
 $3n$ 、 $3n+3$ 、 $3n+6$ と表される。
それらの和は、

$$\begin{aligned} 3n + (3n + 3) + (3n + 6) \\ = \end{aligned}$$

正答例：

<9 (n+1) と計算している場合>

n+1は整数だから、9 (n+1) は9の倍数である。したがって、連続する3つの3の倍数の和は、9の倍数になる。

<9n+9と計算している場合>

9n、9が9の倍数で、9の倍数の和は9の倍数だから、9n+9は9の倍数である。したがって、連続する3つの3の倍数の和は、9の倍数になる。

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第2学年〕 A 数と式

- (1) 文字を用いた式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。

＜改善に向けて＞

図形を構成する辺や角の関係を捉える問題の正答率は比較的高かったが、素数の意味や文字式などの基礎・基本の理解や式の意味を説明する力に課題がみられた。

小学校と同様、学習指導要領の目標にある「算数・数学の問題発見・解決の過程（考える過程）」を大切にした授業を展開し、解答を導き出すための理由や過程を説明したり、議論したりすることで、知識や思考力の向上を図る必要がある。

また、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決する学習をしていく必要がある。

【中学校理科】

問題番号	正答率 (%)			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
1(5)	34.3	47.2	44.9	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことにに関する知識及び技能が身に付いているかどうかを見る
2(1)	17.6	19.3	14.0	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを見る
9(1)	30.5	36.5	31.8	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかを見る

問題番号 2(1)

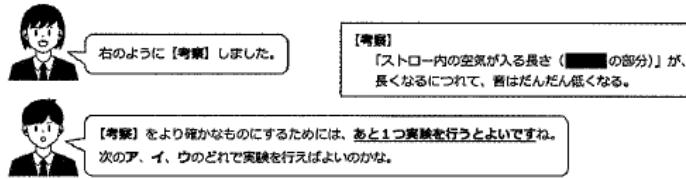
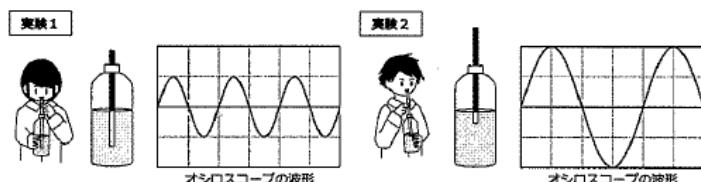
【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを見る問題

2

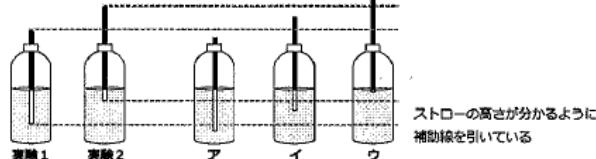
理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。
(1)、(2)の各問い合わせに答えなさい。



【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（■■■の部分）」を覚えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。
次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。



(1)

下線部について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選んでください。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでもかまいません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。

選んだ実験： 振動数から読みます。

分かればよいこと

正答：

【実験1、2の波形の振動数<アの波形の振動数】の条件を満たしているもの

例1 実験1、2より振動数が多いことが分かればよい。

例2 実験1、2の振動数が、アよりも少ないことが分かればよい。

【実験2の波形の振動数<イの波形の振動数<実験1の波形の振動数】の条件を満たしているもの

例1 実験1より振動数が少なく、実験2より振動数が多いことが分かればよい。

例2 振動数が、実験1と実験2の間であることが分かればよい。

【ウの波形の振動数<実験1、2の波形の振動数】の条件を満たしているもの

例1 実験1、2より振動数が少ないことが分かればよい。

例2 実験1、2の振動数が、ウよりも多いことが分かればよい。

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第1分野〕

(1) 身近な物理現象

ア (ア) 光と音

⑦ 音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解すること。

問題番号 9(1)

気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる問題

9

理科の授業で学習した空気について、科学的に探究しました。

(1)、(2)の各問に答えなさい。



動画を見て、缶がつぶれた理由を予想しましょう。

予想を記述したら先生に送信しましょう。

タブレット上に、みなさんの【予想】(図)を共有します。



動画

学習した内容をもとに、振り返っています。



学習を経て、自分の考えがどのように変化したか、Aさんに【振り返り】を発表してもらいましょう。



Aさんの【振り返り】
わたしは煙のようなものが上がったので、最初は燃焼が起こって缶がつぶれたと思いましたが、状態変化によって缶の内側と外側とで圧力の差ができたからと分かりました。…

(1)

Aさんの【振り返り】は、Aさんの【予想】から学習した内容が反映されたものになっています。

Aさんの【予想】として並も適切なものを1つ選びなさい。

Aさんの【予想】

○ 煙のようなものが
上がる化学変化が起
こったのではないか。

○ 缶の中の水蒸気が水
に戻って、体積の変
化が起きたと予想す
る。

○ 進めると缶の中の空
気の体積が大きくな
るように、冷えると
空気の体積が小さく
なると考えた。

○ 缶を水につけたとき
に、水に押されたか
らだろう。

正答：

煙のようなものがあがる
化学変化が起こったのでは
ないか。

学習指導要領における内容（抜粋）

〔第2分野〕思考・判断・表現（枠組み：分析・解釈）

④ 気象とその変化

ア (ア) 気象観測

⑦ 気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解すること。また、気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだして理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて理解すること。

＜改善に向けて＞

情報を吟味する判断力や課題設定の力が付いてきているが、結果を適切に説明する力や探究の過程の見通しについて分析して解釈する力に課題がある。

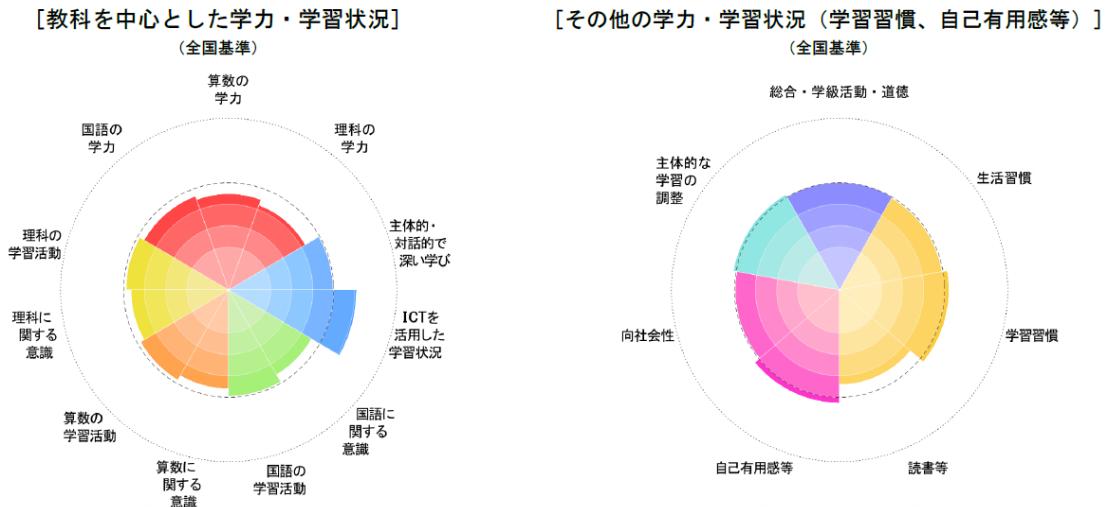
実験や観察した事実の関係性を検討する際には、「○○と比べて」のように比較する対象を明確にして文章に表現することで結果を適切に説明したり、探究の過程において、修正前の考えを消さずに残したまま修正し、自己の変容を振り返ったりして、分析して解釈する力を高めていく必要がある。

5 学習状況調査結果の概要

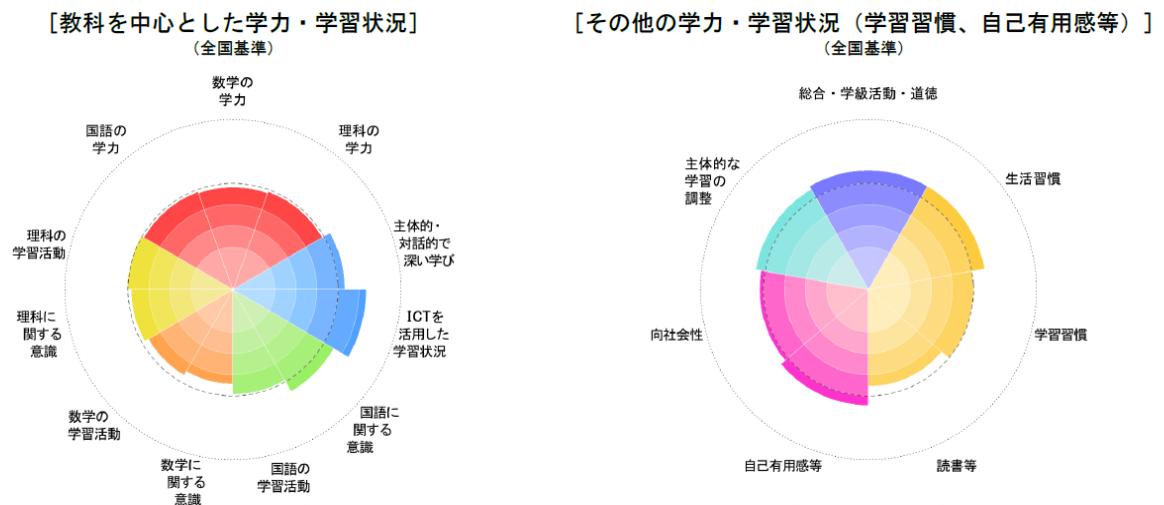
(1) 結果チャート

※ 内側の点線は全国基準

【小学校】



【中学校】



吉田町の児童生徒は、「教科を中心とした学力・学習状況」の回答において、「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学び」に関して高かった。それに対し、「教科に関する意識」や「教科の学力」に関しては低かった。

「その他の学力・学習状況 (学習習慣・自己有用感等)」の回答においては、「読書等」を除き、「生活習慣」「学習習慣」「自己有用感等」「向社会性」「主体的な学習の調整」「総合・学級活動・道徳」に関しては全国に比べて高い割合で肯定的であった。

これらの結果から、ICTを活用した主体的・対話的な学び方が児童生徒に浸透しており、学習環境に対する前向きな態度が養われている傾向にある。

引き続きICTを活用した探究的な学習過程を大切にしながら、学びと実生活をつなげ、教科が役に立つと実感することで、教科に関する意識や学力を伸ばしていく必要がある。

(2) 児童生徒質問紙調査における成果と課題
 <成果がみられた質問項目>

吉田町…肯定的な回答をした児童生徒の割合
 県や全国との正答率の差 10 以上 0 以下

質問事項	小学校			中学校		
	吉田町	県比	全国比	吉田町	県比	全国比
自分には、よいところがあると思いますか	90.3	2.4	3.4	90.4	3.2	4.2
学校に行くのは楽しいと思いますか	94.9	7.3	8.4	87.8	0.1	1.7
目的意識	将来の夢や目標を持っていますか	87.0	3.1	3.9	72.1	3.1
	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	86.9	6.0	6.1	89.1	10.4
コミュニケーション力	人が困っているときは、進んで助けていますか	97.7	4.2	4.0	95.7	3.9
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	83.2	10.4	12.6	85.6	10.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか	86.5	1.4	1.6	90.0	3.2
情報活用	小学5年（中学1, 2年）のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	92.6	40.1	45.9	95.7	31.5
な主体的	小学5年（中学1, 2年）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか	87.5	7.3	7.2	88.3	9.6
な対話的	授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	94.4	2.3	2.5	95.3	2.4

<課題がみられた質問項目>

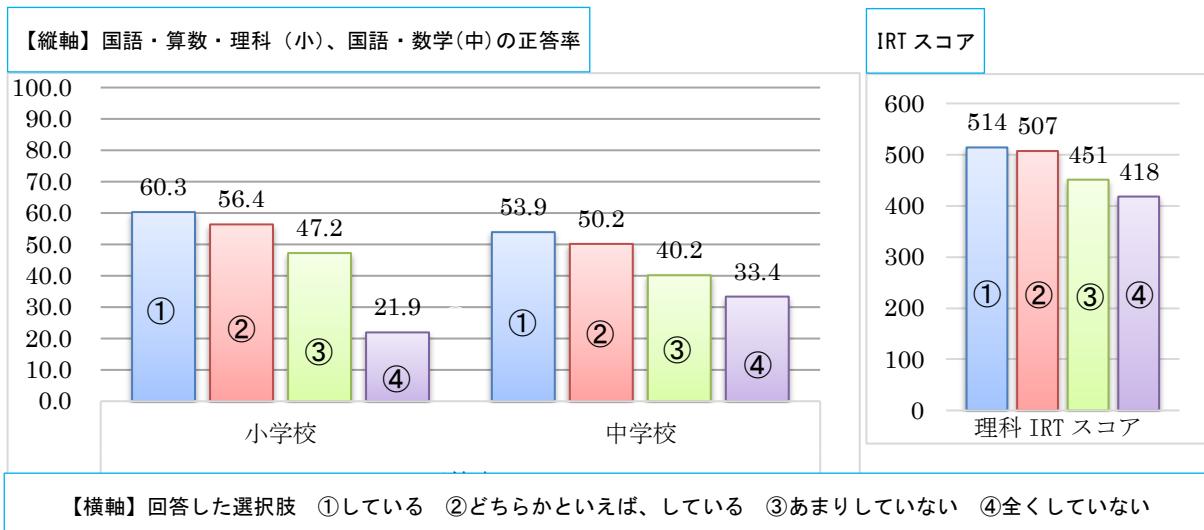
質問事項	小学校			中学校		
	吉田町	県比	全国比	吉田町	県比	全国比
教科への意識・理解	国語の勉強は好きですか	54.9	-1.7	-3.4	61.3	1.8
	国語の内容はよく分かりますか	77.2	-4.2	-5.6	80.9	2.2
	算数・数学の勉強は好きですか	55.8	-3.7	-2.1	46.1	-10.7
	算数の内容はよく分かりますか	76.7	-1.4	-1.6	58.3	-10.7
	理科の授業の勉強は好きですか	78.1	-1.9	-2.0	61.3	-5.6
	理科の内容はよく分かりますか	85.6	-2.2	-3.3	63.9	-7.3

本町は、教育目標「生涯にわたり学び合い高め合う人づくり」へ向け、令和6年度、「目的意識」と「主体性」の育成に注力してきた。探究的な学びや人との関わりを大切にした学級経営の結果、「目的意識」や「コミュニケーション力」について肯定的な回答が多く、「自分にはよいところがある」「学校に行くのは楽しい」と感じている児童生徒も多かった。また、ICTを活用した探究的な学びの学習過程を大切にした取組が「主体的・対話的な学び」の実践につながり、主体性や協働性への意識が高い傾向が見られた。

一方で、教科への意識と学習内容の理解に課題が見られる。今後は誰一人取り残されない魅力ある授業づくりで学びに向かう力を高める必要がある。

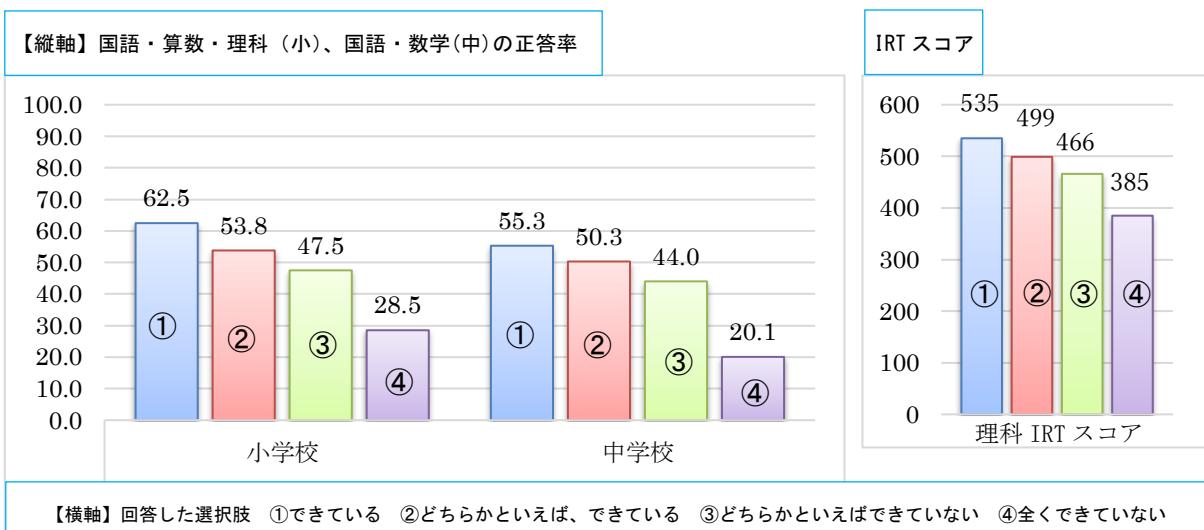
(3) 「教科に関する調査結果」と「質問調査結果」のクロス集計

「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか?」



「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた児童生徒は、正答率が高い

「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできますか?」



「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできる」と答えた児童生徒は、正答率が高い

「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできる」と答えた児童生徒は正答率が高いことから、自ら生活を整えたり、自ら学んでいったりすることを意識していくことと教科の学力に相関があるといえる。